

受験勉強と同時並行して行うべきこととは
—辞書・新聞・読書を活用して「読解力」を身に着けること—

開倫塾
塾長 林明夫

Q：新学年がスタートしました。第一希望校合格のために、受験勉強と同時並行して行わなければならないことは何ですか。

A：三つあります。

- (1) 第一は、「受験生としての自覚」を1日も早く持つことです。私立中学校入試・中高一貫校入試・高校入試・大学入試などの受験生は、「受験生としての自覚」を1日も早く持つことです。これが遅くなればなるほど、第一希望校合格は遠くなります。
- (2) 第二は、「効果の上がる勉強の仕方」を1日も早く身に着けることです。開倫塾の「学習の3段階理論」をしっかりと「理解」し、少しずつでもO.K.ですから挑戦してください。必ず成績アップ、偏差値アップに直結しますよ。
- (3) 第三は、「読解力」を1日も早く身に着けることです。受験勉強の基本は、教科書や教材、試験問題に書き記(しる)されていることが「正確に読み解ける」ことです。「読解力」なくして、受験勉強は一步も進みません。英語や数学も含め、長文化する問題文や設問を試験時間内に正確に読み解くだけの「読解力」がないと、そこに書き記されたことがよくわかりません。そのため、入学試験の問題を最後までやり抜くことができなくなります。「読解力」なくして、入試突破はないと考えます。

Q：では、「読解力」を身に着けるにはどうしたらよいのですか。

A：受験勉強と同時並行して、「辞書」「新聞」「読書」の三つを活用することです。

- (1) 「ことばは力」です。「語彙(ごい)は力」です。身に着けている「ことばの数」「語彙の数(語彙数)」が多ければ多いほど、教科書や教材、問題文や設問に書き記されている内容がよくわかります。よく「理解」できます。
- (2) 身に着けている「ことばの数」「語彙数」が少ないと、書いてある内容がよくわかりません。受験勉強に用いる教科書や教材を理解することができませんので、受験勉強をすることが難しくなります。また、入学試験の問題文や設問に書いてある内容がよくわかりませんので、問題を解いて正確を出すことができません。そのため、第一希望校合格は難しくなります。
- (3) この受験に不可欠な「ことばの数」「語彙数」を増やすのに最も効果的なのが、辞書の活用です。意味のよくわからないことばがあったら「気持ちが悪い」と考え、ためらわずに辞書を用いて調べる。辞書で調べたことは、必ず「意味調べノートやカード」に書き写すこと。そのノートやカードを何回も読み直して、辞書で調べた「ことばの意味」はすべて何も見ないでスラスラといえるようになるまで正確に身に着けることです。また、書き取り練習を繰り返して、正確に書けるまでにすることです。

私のお勧めは、すべての受験生は英語の辞書を含めて1日10回、1年で3650回辞書を引くことです。第一希望校合格後も1日10回辞書を引き続ければ、3年間で1万回となり、1万語

のことば・語彙を身に着けることができます。「ことばは力、語彙は力」です。ことばの数、語彙数を増やすには、辞書が一番役立ちます。

Q：「新聞」はどのように活用したらよいのですか。

A：(1)記述式の問題や課題解決型の問題の出題が激増していますので、現代社会の問題や課題が何であるかを知り、分析的・論理的に問題文や設問を読み解いて正解を導くことが、私立中学校入試・中高一貫校入試・高校入試・大学入試などすべての段階の入試で求められています。

(2)これに対応するためには、過去に出題された問題(過去問)を練習するだけでは足りません。新聞を毎日一面から丹念に一定時間、分析的・論理的にスピードを上げて読み込み、自分で考える力、批判的思考能力を身に着けることが求められます。同時に、自分の考え方を短い文章にわかりやすくまとめ、文章や口頭で自由自在に発表し、議論に参加する力が求められます。

(3)そのために大切なのは、来年に受験を控えた受験生であろうと、否、受験生であるからこそ1日30分以上新聞を読み、様々な問題や課題について自分で考える力を身に着けることです。興味関心のある記事は切り抜いて「スクラップブック」にはりつけ、コメントを書いて保存し、繰り返し読み直すことが第一希望校合格のために最も効果的です。

新聞を毎日一定時間、できれば30分以上一面からスピードを上げて読む習慣をつけることは、長文化する入学試験の問題文と設問を試験時間内に正確に分析的・論理的に読み解き、正解を導く力を身に着けることに直結します。特に、難関大学の受験生は必ず英字新聞を30分以上読んでくださいね。

Q：「読書」はどのように活用したらよいのですか。

A：(1)新聞は最新の出来事・現代社会の問題や課題を自分で考える力を身に着けるのに役立ちます。ただし、新聞だけでは、人間とは何か・人生をどのように生きてらよいのかを考えたり各教科を支えたりする深い知識や背景を学ぶのには不足です。

(2)各教科の教科書や先生方に紹介された「古典」とよばれる「必読書」を中心とした読書、じっくりと腰を落ち着けて一語一語かみしめるような姿勢での「作者との時空を超えた対話」をする読書を、難関校の受験生は毎日1時間以上することをお勧めします。

(3)これぞという本は5～6回読むこと。大切なところは「書き抜き読書ノート」に書き抜き、折に触れて読み返すことにより自分が生きる上で参考にする「My Notebook」の一冊に加えましょう。「読書量」と「学力」「偏差値」は正比例すると考えます。

Q：最後に一言どうぞ。

A：教科の勉強をどんなに行っても、「読解力」が不足していたのでは受験は勝ち抜けません。「辞書」「新聞」「読書」を活用して「読解力」を身に着けてはじめて第一希望校合格が可能となります。是非、挑戦してください。

(宇都宮大学大学院工学研究科客員教授)

2018年3月10日(土)10時58分